



雪椿まつり トレジャーハンティング (4月14日 加茂山公園)

主な内容

- 小池市長お別れの御挨拶 217
- 第53回雪椿まつり開催 18 21
- 雪椿マラソンほか結果 21
- 平成30年度加茂市表彰式 22 23
- 教育委員会表彰式 23
- 加茂の風土記「加茂の町造り」 24

百年に一度の唯一の好機！

新加茂病院に産科の個室 20室を確保しました！ 妊婦の方々は、皆 個室を希望しています。

新加茂病院の隣りに病児保育園を確保しました！ お金は加茂市と田上町が負担！

この二つこそ絶対必要な少子化対策！

産科の個室が1つでは、医師も妊婦もやって来ず、産科は実現しません。

市民の皆様へ お別れの御挨拶

加茂市長 小池 清彦

このたび、市長職を去ることになりました。

前半生において、国の公務員として培ってきた力を傾注して、愛してやまぬふるさとのもち加茂市において、日本一の市政のまち、市民の皆様、お一人おひとりが最高にお幸せになるまちを築き上げようと決意いたしましたから、六期二十四年が過ぎました。

この間、市民の皆様から身に余る御友情と御教導と御支援を賜り、本当に有難うございました。

退職することが決まりました後も、なお、市民の皆様から温かい御恩情をいただき続けておりまして、ただただ有難く感謝の思いで一杯でございます。

在職期間中、私は至らぬ身ではございますが「よもやま話路線」の下で、市民の皆様のご指導をいただきながら、頑張つて参りました。

お陰様で、加茂市の市政の水準は、日本のトップクラスに達したと考えております。

また、市民の皆様のご意向に従いつつ、仁を貫き、義を貫くことができましたことに満足しております。

この二十四年間、市民の皆様お一人おひとりをお幸せにすることのみを行い、市民の皆様を不幸にすることは、何一つ行つてこなかったことに誇りを抱いております。

市町村合併の危機

私の在職期間中、加茂市の歴史上めつたに起こるとは思われないいくつかの大きな危機がやつて参りました。

最初に生じた危機は、市町村合併によって、加茂市が消滅するという危機でございました。

この件につきましては、私の市長着任当時から出ていた問題でしたが、平成十三年に小泉内閣が出現してから本格化したしました。

小泉内閣の真意は、地方へよこす金を大幅に減らすことにありました。人口が多い大きなまちは、小さなまちに比べて国のよこす地方交付税交付金が減らされる仕組みになっているからです。

今では、合併したまちがひどいことになっていることは、誰でも知っていることなのですが、当時は、政府がそれをひた隠しにいたしましたので、多くのまちの住民がだまされてしまい、新潟県では、百十一あった市町村が三十一になってしまいました。新津市も白根市も栃尾市もなくなっていました。

私は、全国を回って、市町村合併の阻止に努め、相当に大きな成果をあげることができましたが、新潟県内では、見附市を助けることが

できただけで、あとは助けることができない結果となったのが残念であります。

しかし、ふるさと加茂市を助けることができ、独立を守ることができましたことは、本当に嬉しいことでもございました。

しかしながら、加茂市が三条市に合併されてしまい加茂が三条の辺地になって、小京都加茂が消滅する危険は、今でも残っております。

おそらく、その危険は、加茂市がうっかり田上町と合併することから起こると私は考えております。加茂市と田上町が合併すると国からくる地方交付税交付金は何億円も大幅に減らされ、新しいまちの財政は厳しくなります。その上加茂市と田上町が合併した新しい加茂市の市民は、おしなべて、「小京都加茂」という意識が薄くなります。その結果、合併した加茂市の市民の多数は、三条市への合併を望むようになり、その結果、加茂は田上とともに三条市の辺地になってしまい、北越の小京都加

茂は永遠に消滅します。その結果加茂は、街も崩壊し、川も山も田畑も荒れ果てる結果となることを私は最も恐れるものであります。

市民の皆様！絶対に田上町と合併してはなりません。それはお互いのまちにとつて不幸なことであり、加茂、田上ともに滅亡に通ずる道なのであります。

現在、日本の市町村の数は、千七百十八であります。しかし、一般に、欧米の先進民主主義国の市町村の数は、はるかに多いのであります。ドイツの市町村の数は、約一万二千あります。アメリカは約一万八千あります。フランスは約三万七千もあります。それでこそ、一国の民主主義の基礎である地方の民主主義がしっかりと行われることになるのであります。

市民の皆様！北越の小京都加茂市の独立を必ず守って行って下さいますようお願い申し上げます。

加茂病院消滅の危機

次に起こったのが、加茂病院消滅の危機でありました。これは、平山知事さんの時代に、県の官僚が、加茂病院のベッド数を百七十ベッドから百五十ベッドに減らし、その後どんどん減らして診療所にしてしまうという計画を作ったことから起こった危機でありました。

この時私は、加茂市民の皆様とともに立ち上がり、大決起集会を開催して抵抗いたしました。強力な加茂市区長会をはじめ、諸団体も立ち上がり、渡辺秀央元郵政大臣や坂上富男衆議院議員先生の御支援もあり、勝利をおさめることができました。平山知事さんの合意の結果は、通常のベッドを二十ベッド減らす代わりに、療養病床を三十ベッド増やすというもので、総ベッド数は、百七十ベッドから十ベッド増えて百八十ベッドになりました。今から思えば、自分の方から言い出されて、かえって十ベッド増やして下さった平山知事さ

んは、大きな人物であったと、なつかしく思い出されます。

しかし、産科については、当時個室中心の産科の病院が出てきたことと、新潟大学医学部産婦人科の教授が加茂病院産科の西山先生が退職されたあと、医師を派遣しなかったため、産科は閉鎖されてしまいました。

一方、平山知事さんの後を継がれた泉田知事さんは加茂の御出身で、大英断を以て、加茂病院を建て替えることとされました。本当にすばらしいことであります。

しかしながら泉田知事さんは、新しい加茂病院の基本計画の策定を委員会にまかせられ、その委員会は、新潟大学医学部の強い影響下にあったため、産科のシャワー・トイレ付きの個室が一室しかないという、待望の加茂病院産科の復活は、実際には不可能なものとなっております。

そこで私は、泉田知事さんと一年かけて折衝し、当時の自由民主党新潟県連会長の星野

伊佐夫先生の御支援をいただいで、産科のシャワー・トイレ付きの個室十三室（今後二十室をめざすことになっていきます。）を確保することができました。この十三室には、部屋の入口のところに「産科優先室」と書いたプレートを貼ることが、県との約束になっています。

新加茂病院は、今年九月下旬に開院します。産科の個室十三室は、確保いたしました。しかし、これからが正念場です。産科の医師を加茂病院に配置することが県の約束になっているのです。加茂病院に産科優先室という個室が十三もできて、産科の医師が配置されないというようなことがあってはなりません。加茂病院に産科の診療科を断固実現しなければなりません。

地方交付税の超大幅削減の危機

平成十三年小泉内閣が発足すると全市町村に対し、常軌を逸したメチャクチャな超大幅

な地方交付税交付金の削減が行われました。即ち、小泉内閣と安倍第一次内閣の期間において、加茂市に対し、毎年十億三千万円の加茂市が自由に使える地方交付税交付金の削減が行われました。

当時加茂市の常勤の職員は、三百三十二人いたのでありますが、毎年の十億三千万円というお金は、一人七百万円として計算すると、実に加茂市の職員の半分近い百四十七人分の人件費に相当したのでありました。

各市町村とも途方に暮れたのでございましたが、大部分の市町村は、市町村政の水準を大幅に落として対応したのでございました。その結果、多くのベテランの市長が選挙で落選したのでありました。

今から思えば小泉内閣が現れるまでは、「均衡ある地方の発展」という基本哲学の下に、地方にたくさんのお金がきていたのであります。その結果、当時は、各市町村はたくさんのお金を持っていたのであります。これに対

して、小泉内閣は、「都市中心主義」を揚げて徹底的に地方を圧迫したのであります。当時私も前任の太田市長さんから十八億五千万円の貯金を引き継いでおりました。そこで私は、議会の御同意を得て、他の市町村とは異なり、市政の水準を一切下げないこととし、この十八億五千万円の貯金を使って食いつなぎながら、人員削減を以て対応することにいたしました。生首を切ることはできませんので、主として定年で毎年十人退職しても十五人退職しても、何人退職しても毎年二人位しか採用しないという政策を実行いたしました。これは、市役所への就職を望む若い方々には、まことに酷な政策でありましたが、国も大幅な人員削減を続けなければ、退職手当債の起債を認めないという残酷な政策を続けていたこともあり、真にやむを得ずこの政策を続けました。

その結果、かつては三百三十二人いた市の常勤職員は平成三十一年度の当初には、二百

二十九人となり、百三人の人員削減を行ったこととなります。その結果、一人七百万円で計算すると、毎年ベースで七億二千万円の人員費を削減したことになりますが、小泉内閣と第一次安倍内閣によって減らされた毎年十億三千万円の地方交付税交付金の分をまだ三億円カバーしておりません。

議会と相談してその同意の下に行った、この人員削減によつて、加茂市は、市政の水準を一切落とすことなく、危機を脱することができましたが、加茂市の貯金は、当然減少して、下げ止まり、平成三十一年度当初の加茂市の貯金は、二億三千万円であります。

選挙のとき、「小池市長は、十八億五千万円の貯金を減らして、八十七万円にしてしまった。」という宣伝がなされましたが、加茂市の貯金は二億三千万円あり、たまたま財政調整基金に置いてあったお金が八十七万円であったというだけの話であつて、貯金は、土地開発基金等に積んでおいて使つて行くのが加茂市

の経理のやり方であります。

市政の水準は一切下げずに貯金を使つて食いつなぎながら、人員削減を行つて対応した結果、十八億五千万円あつた貯金は、二億三千万円に減少いたしました。日本のトップクラスの市政の水準を堅持して参りましたので、選挙中の非難は全く当たらないものであります。

全小中学校の冷房化も行わず、加茂市営の五つの体育館の冷暖房エアコン化も行わず、高齢者も子どもも、中年もすべての人たちの日本一の福祉も実施せず、病児保育園も造らず、ひたすら貯金を増やして行けば、それでよかつたのでしょうか。

私は今まで、加茂市の貯金をマイナスにしたことはありません。国の公務員時代に培つた予算運営の手腕を使つて、加茂市のお金は極力使わないようにし、国と県のお金をできるだけ多く使つて、財政を危機に陥れることなく、日本のトップクラスの市政を実現してきましたところであります。

猿毛山消滅の危機

平成八年小京都加茂市の比叡山ともいふべき猿毛山が採石によって消滅するという危機が訪れました。当時は、日本国中で、このようにして山がなくなるという事態が起こっていたのであります。

私は、市議会と協力し、地元の猿毛の方々と協力し、市民の皆様と協力し、日本一効果のある自然環境保全条例をつくって、猿毛山の採石を阻止し、猿毛山を守り、あわせて、小京都加茂市を自然破壊から守ることができました。これは、私たちが、先祖に対しても、子孫に対しても申し訳のたつ、歴史的な事跡であったと思っております。

次に重要事項について申し述べます。

部活の合理化

運動部活動や吹奏楽部活動のいわゆる部活につきましても、私が中学生の頃は、全く自由

で、それを行う者は極めて少なかったものであります。

私のクラスには五十人以上の生徒がおりましたが、部活をやっていたのは私も含めて四人にすぎませんでした。

ところが、今や中学生は部活を強制され、土曜と日曜も含めて、毎日運動をやらされ、夏休みまでほとんど毎日運動をやらされているのが現状であります。

ごく一部の運動に秀でた生徒だけならともかく、大部分の普通の生徒にまで、毎日運動を強制することは、全く無駄なことであり、むしろ健康上極めて危険なことであります。

また、一年中ほとんど毎日運動をさせられる場合、運動した日は、十分に勉強ができるものではありません。中学生の勉強の学習内容は、極めて高度です。一年中ほとんど毎日部活をやらされていたのでは、日本の中学生は、学力において外国の中学生に遅れをとるおそれがあります。

そこで、私は、部活の問題を指摘いたしましたところ、全国的な反響があり、スポーツ庁の反応は早く、昨年五月にスポーツ庁のガイドラインが設定されました。

私は早速スポーツ庁のガイドラインに基づき、部活を合理化し、中学生を苦しみから解放し、幸せにいたしました。

私は、スポーツ庁のガイドラインもまだ厳しすぎると思っております。週三時間も体育の時間があるのに、さらに週日の五日間に四日も運動をさせることは酷だと思っております。

さらに一般の生徒は、夏休みは十分に休ませるべきだと思っております。

生徒たちにとって、夏休みを休むことは、法律上の権利なのであります。

私が定めた部活の「加茂市立の各中学校における運動部活動の方針」と「加茂市立の各中学校の運動部活動の休養日にける活動の許可の要領」は、きわめて合理的なものであり、生徒が在学中と卒業後に健康を害することを防

ぐものであり、生徒と先生を幸せにするものであります。

ロシア男女体操チームの 東京オリンピック事前合宿

平成二十九年八月ロシア体操連盟のニカノロワ・バレンチナ副会長（女性）を団長とする四人の方々が加茂市を訪問され、私達と話し合った結果、東京オリンピックの事前合宿を加茂市の体操トレーニングセンターで行うことを決定されました。

日本中の市町村が東京オリンピックを成功させるため、それぞれ事前合宿地になろうとしている時に、男女ともに世界第二位の強豪であるロシアの側から、加茂市を名指しされたことは、極めて光栄なことであります。

世界体操協会の渡辺守成会長がロシア側に加茂市を推薦されたようでありますが、ロシア側は加茂市を見て、「本当の日本を見た。」と

までいわれ、加茂市としても全力をあげて御協力する決意を固めたところでもあります。

東京オリピックの器械体操競技で使用する器具は日本のセノー（ミズノ）とドイツのスピーズの共同企業体が製作するものに決まりましたので、加茂市は現在この器具を設置する作業を行っているところです。また、センター内の角張ったところに緩衝材を貼り、ピットの改修も行っているところです。

ロシア体操チームは、選手の選抜なども加茂市の体操トレーニングセンターで行いたい意向のようで、今年の七月には、大勢の人員が加茂市に来る予定となっております。

国際的なできごとであり、加茂市の威信にかけても、ロシアチームに気持ちよく快適に過ごしていただき、大きな成果をあげていただけのように、全力を尽くす必要があります。

国民文化祭全日本民謡大会の開催

毎年開かれる国民文化祭は、今年の新潟県が担当で、加茂市は全日本民謡大会を加茂市の文化会館で開催することを提案し、県の了承を得たところでもあります。経費は県が三分の二、加茂市が三分の一の負担です。

加茂市の民謡団体ザ・松坂が毎年主催している小唄・松坂・民謡日本一大会においていただいている、民謡四天王の一人であられる藤堂輝明先生にお願いして、御手配いただき、日本の超一流歌手が十人出場することの手配が終わっております。踊りも、尺八も、太鼓も三味線も超一流の出場が決まっています。また、加茂市も含め、新潟県内の民謡歌手も十人出場する予定です。

ちなみに、全国から出場する超一流の歌手は、次のような豪華なメンバーを予定しています。

藤堂輝明さん、原田直之さん、大塚文雄さん、

鎌田英一さん、鈴木正夫さん、小杉真貴子さん、高橋キヨ子さん、小野花子さん、菊地恵子さん、根本美希さん

御成功をお祈りしています。

加茂市・田上町消防衛生保育組合の 焼却炉について

私が市長に就任した平成七年当時、この焼却炉は、新設すると七十億円かかるといわれておりました。

現在使用している炉は、つくるとき十一億円かけたものですが、七十億円の炉も、現有の十一億円の炉も性能はほとんど同じです。七十億円の炉を新設すれば、それ以外何もできません。福祉の向上に使うお金もありません。その後の修理費は、現在の炉の七倍かかります。あらためて環境アセスメントを行って地元住民の了解を得なければなりません。

一方、現在の諸機械は、みな部品が比較的簡

単にとりかえられるようになっておりますので、現有の焼却炉は常に新品同様の状態で維持していくことができます。

そこで、七十億円もする焼却炉をつくることはせず、現有の焼却炉の部品をとりかえながら、これを新品同様の状態で維持していく方法でやって参りました。

その結果は、何の不具合もなく、今日までやって参りました。この焼却炉をつくった会社も、今のやり方で十分維持運営して行けるといっております。

ところがこのたび、二基ある炉の一つの排気のダイオキシンの値が、基準値の排気一立方メートル当り五ナノグラム（一ナノグラムは、十億分の一グラム）を少し越えて、十三ナノグラムとなりました。

はじめ、現場では炉に不具合が生じたものと考えて、いろいろ手を尽したのですが、うまくいきませんでした。

そこで、おかしいということ、調べてみま

したところ、原因は、排気が最後に通る集塵機にあることがわかりました。わが組合の集塵機は、平成十一年度に導入した最新式のバグフィルター集塵機です。この中には三百十五本のろ布が入っていて、これでダイオキシンを吸着させているのですが、かなり長い間、このろ布を取り換えてこなかったため、ダイオキシン値が基準値を越えたのであります。現在、このろ布を全部とりかえることにしておりますが、このろ布の生産には数ヶ月かかりますので、もう少し時間がかかります。

いずれにいたしましても、組合の焼却炉は、老朽化はしておりません。集塵機のろ布の取り換えを怠っただけの話であります。

集塵機のろ布をとりかえるだけの話であるのに、勘違いして、無駄な大金を使い、その結果、財政状況を悪化させ、市政の水準を落してはなりません。

市民の皆様お一人おひとりの、お幸せを堅持するため、維持して行かなければならない事業

以上のほか、加茂市民の皆様お一人おひとりのお幸せを堅持するため、ぜひとも維持して行かなければならないと考えられる事業は、次のようなものであり、これをやめてしまった場合は、市民の皆様がたいへん不幸になってしまわれると考えます。

それは、次のような事業であります。

1 日本一の福祉の体制

高齢者、子供、女性、青壮年それぞれの高い福祉の水準

2 加茂市中に張りめぐらされた市民バス

路線網

3 日本一のスクールバスの体制

4 日本一のコミュニティセンター（コ

ミニニティセンター的施設を含む）の
体制と百円風呂

5 商店街への手厚い保護と既存以外の
郊外型大型店の市内参入拒否

6 二百万円までの無担保無保証人融資
7 手厚い企業向け融資

8 農機具購入費補助制度

9 加茂美人の湯

10 ゴミ袋の有料化を行わないこと

11 ゴミ袋の自由

12 自主防災組織をつくらないこと

自主防災組織をつくった政府の意図は、
これを実質は自主防衛組織にして国民を
平時から軍事的に組織化しておくことに
ある。

13 防災訓練を行わないこと

水害等災害が発生して危険がせまった
ときは、「ひたすら逃げよ」が鉄則であつ

て、防災訓練は有害無益である。災害のと
き、真に役に立つのは、消防団と建設業の
機械力である。

14 災害が発生したとき、発出するのは、
極力避難指示のみとすること。

避難勧告は、避難すべきか否かの判断
が各 人に委ねられるので、市民が判断
に苦しむ有効でない。

15 災害発生時の避難体制は、現行の体
制が最適である。即ち、スクールバス三
十台をドライバーとともに待機させて
おき、避難指示が出たら市の職員がこ
のバスに乗って現地へ行き、地元の消
防団員とともに一軒一軒訪問して、「ま
ずいて、自分の車で逃げて下さい。そう
されない方は、このバスに乗って避難
して下さい」と告げるやり方である。

16 信濃川河川敷における果樹植栽の自由

17 六種類の武道から選択する安全で楽しい中学生の武道の授業

今後の大きな課題は、加茂病院産科の実現と四つ目の特別養護老人ホーム

加茂市の今後の大きな課題は、加茂病院産科の実現と四つ目の特別養護老人ホームの建設であります。

すでに申しましたように新加茂病院には、十三の産科の個室がつくられます。産科の診療科は、絶対に実現しなければなりません。

次に、令和七年になりますと、加茂市の六十五歳以上の人口がピークに達します。令和十七年になりますと、七十五歳以上の人口がピークに達します。このとき、第三平成園より少し大きな特別養護老人ホームが一つ必要になります。

その名称は「令和園」となる可能性が大きいものと思いますが、この四つ目の特別養護老

人ホームをつくらないと、加茂市民は、きわめて不幸になります。特別養護老人ホームの利点は、入居者が収入即ち年金の中から料金を払って行けることであります。令和七年頃に着工できれば、理想的と思います。

今後日本が平和のうちに繁栄して行くためには、二つのことが絶対に必要である。

一つは少子化からの脱却であり、いまひとつは、平和憲法を守り抜くことである。

少子化からの脱却

現在における日本の最大の課題は、少子化からの脱却であります。

少子化からの脱却のため、加茂市ができることは、全部やったと思っております。その中

でも最重要なものが、加茂病院における産科の実現であり、喫緊の課題であります。

しかし、市町村のやることには、限度があります。やはり本格的な大政策は、国が行わなければなりません。

私は、小渕内閣と森内閣の政策を一手に引き受けて行っていた、当時の自民党の亀井静香政調会長に対し、育児休業を三年にすべきことを提案いたしました。

亀井氏は、「そういう提案ははじめて聞くが大変よい。」といって、早速これを公務員に対して実行し、民間には、努力目標といたしました。

その後森内閣が総辞職したため、それ以上進展させるようなことはできませんでしたが、曲りなりにもお金がもらえるのは三年のうち的一年目のみであります。

一方、北欧諸国は、育児休業を三年にし、三年間国の金で子育てができるようにして、少子化から脱却したのであります。

私はこれまでも絶えず、国の金で三年間育児休業ができる制度を創設することを提案し続けて参りました。

今後とも国の金による育児休業三年を提案し続けて参ります。

平和憲法を守れ

平和憲法は、国の宝であります。

私は前半生防衛庁の内部部局におりましたので、このことは、身にしてみております。

平和憲法が存在するがゆえに、日本は、朝鮮戦争にも、ベトナム戦争にも、湾岸戦争にも参戦させられることがありませんでした。

イラク戦争のときは、私は派兵反対の書翰を全閣僚と全国会議員に送りました。

菅民主党代表と土井社民党党主は、私の書翰を手にして、小泉総理を追求されましたが、派兵は行われてしまいました。しかし、一応サマーワという戦闘地域でないところに派兵し

たことになっております。実際は、砲弾が飛んで来ましたが。

私が防衛庁にいた経験からいたしますと、日本は、アメリカの要求は万事断ることはできません。アメリカは、世界の軍事的覇権だけでなく経済的覇権も握っているからであります。しかし、アメリカ並みの派兵だけは、断ることができるのは、平和憲法があるからであります。

日本は、原爆投下という、人類史上最大の犯罪行為が二度行われたそのすべての二発の原爆を落された国であります。そこで平和憲法を持つに至ったのであります。

日本が原爆の惨害を受けた国であり、平和憲法を持っている国であることは、世界中が知っていることなのであります。

一方憲法第九条第二項には、「前項の目的を達するため」という一句が挿入されて、いわゆる「芦田修正」が施されておりますので、日本は枕を高くして眠れるだけの防衛力を持つこ

とができるのであります。従いまして、国を守るために憲法を改正する必要はありません。

他方、ひとたび憲法を改正するならば、日本は、もはや、アメリカからのアメリカ並みの派兵の要求を断ることはできなくなります。たとえ念のため自衛隊の存在を憲法に明記するのみの改正であっても、自衛隊を海外に派兵できる規定も同時に入ることになって、やはりアメリカ並みの派兵を断ることはできなくなります。

ひとたびアメリカ並みの派兵を行えば、イスラム国であろうが、アフガニスタンであろうが、南スーダンであろうが、自衛隊はし烈なゲリラ戦場へ赴くことになりますので、自衛隊員に多くの戦死者が出ます。その結果、自衛隊へ入ろうとする人はいなくなり、自衛隊を維持することは、できなくなります。

しかし、防衛力は保持しなければなりませんので、徴兵制が敷かれることになり、日本人は、赤紙一枚で徴兵され世界のし烈な戦場で

命を落し続けることになるのであります。

私は、今後とも、平和憲法を守るために力を尽したいと思えます。

市長職を去るにあたって

私は、単に市長になりたいために市長選に立候補したわけではなく、ふるさと加茂市において、日本一の市政のまちを築き、加茂市民の皆様お一人おひとりをお幸せにするために市長にならせていただいたものであります。

従いまして、市長職を去りましてからもこの志に全くの変りはありません。むしろこの志は、一段と強いものがございます。

私は、生涯、加茂市民の皆様のおそばを離れることはありません。

私は、いつまでも、ふるさと加茂の市民の皆様お一人おひとりのお幸せをお守りして行く決意であります。そして困っている方々をお

助けして行きたいと思えます。

最後に、あらためまして、六期二十四年間、市民の皆様から賜りました本当に厚い御恩情に心から感謝申し上げますとともに、加茂市民の皆様お一人おひとりの一層の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます、お別れの言葉といたします。

第53回 雪椿まつり 開催



一年間ミス雪椿を務めていただいた斎藤さん、亀山さん、駒村さんとこれから活躍してもらうミス雪椿の森岡桜子さん、ミス雪椿クイーン福田里沙さん、ミス雪椿の児玉あんずさん(左から)

第五十三回雪椿まつり大園遊会は、四月十三日(土)にミス雪椿公開審査、歌謡ショー、大島町交歓会などが市民体育館で行われ、大勢の皆さんから楽しんでいただきました。

■大園遊会

いつもより一週間早い開催でしたが、加茂山公園の雪椿や桜は見ごろを迎えています。大園遊会のメイン行事となるミス雪椿公開審査が始まり、午後二時のミス雪椿発表でミス雪椿クイーンに福田里沙さん、ミス雪椿に森岡桜子さんと児玉あんずさんに決まりました。ミス雪椿の三人には一年間加茂市の観光PRやイベント・セレモニーで活躍していただきます。

アトラクションでは、加茂松坂協会、星の会、ザ・松坂、秋扇会の皆さんから唄や踊りが披露されました。そしてゲスト歌手・羽山みずきさんの歌謡ショーで会場内は華やきました。

大島町のとの交歓会では、加茂市から「桐三段小箱」、大島町から「椿花焼花瓶」が交換され、小池加茂市長と橘田大島町副町長が握手を交わされました。



ミス雪椿公開審査のようす

■市中パレード

ミス雪椿が決まったあと、午後三時からJR加茂駅前をパレードがスタートしました。ミス雪椿クイーンの福田里沙さんとミス大島の山田芹香さん、ミス雪椿の森岡桜子さんと児玉あんずさんが自衛隊新発田第三十普通科連隊の



菊田真紀子衆議院議員



知事代理の佐野哲郎県観光局長



JR東日本新潟支社長代理
河野哲也DC推進室長



握手を交わす小池加茂市長と橋田大島町副町長

オープンカーから笑顔で沿道からの声に手を振ってこたえていました。

パレードは県警音楽隊とカラーガード、ボーイスカウト、交通安全協会、交通安全母の会、ブラス・ワン、大島町の皆さんと御神火太鼓、陸上自衛隊音楽隊、BFC少年消防クラブ、本量寺こども園、須田保育園の皆さんが参加しました。

■14日
勤労者体育センターで雪椿杯争奪バレーボール大会が開催され、県内から十四チーム

■29日 午前七時三十分から水源地第二ダムで粟ヶ岳山開きの安全祈願が行われ、登山シーズンが始まりました。

午前十時からは青海神社拝殿のほか二席で市民茶会が開催されました。あたたかな日差しのおかげで大勢の方々が各流派の茶席を楽しみました。

が出場し、見附BRAVE(見附市)が初優勝となりました。加茂山公園ではトレジャーハンティングが行われ、子どもたちがいろいろなゲームに挑戦しました。



大島町婦人会の皆さん



ゲスト歌手の羽山みずきさん(左)



勇壮な御神火太鼓



県警音楽隊とカラーガード



ミス大島・山田芹香さんとミス雪椿クイーン福田里沙さん



ミス雪椿の森岡桜子さんと児玉あんずさん



陸上自衛隊音楽隊



杉木立での茶席



交通安全母の会の皆さん



青海神社貴賓室での茶席



BFC少年消防クラブの鼓笛隊



第40回雪椿マラソン(13日)



雪椿杯争奪バレーボール大会(14日)



トレジャーハンティング(14日)



粟ヶ岳山開き登山(29日)

第40回雪椿マラソン大会結果

期日 四月十三日

出場選手 百二十六名

【3kmコース・駅前〜道半交差点〜八幡桜並木〜ゴール】

▼小学生三・四年生男子の部

①渡邊春仁(五泉少年マラソンクラブ)②伊丹瑛太(五泉少年マラソンクラブ)③圃 結太(五泉少年マラソンクラブ)▼

小学生三・四年生女子の部①柄澤百花(五泉少年マラソンクラブ)②落合蕃(五泉少年マラソンクラブ)③鶴巻日菜(加茂Jr陸上・七谷小)▼小学生五・六年生男子の部①角田樹一(加茂Jr陸上・加茂小)②鶴巻来音(加茂Jr陸上・石川小)③渡邊彪我(三条ジュニア)▼小学生五・六年生女子の部①安達優衣・最優秀選手賞(五泉少年マラソンクラブ)②石塚春菜(五泉少年マラソンクラブ)③山崎夢夏(三条ジュニア・大崎学園)▼中学生男子の部①井上卓哉・最優秀選手賞(葵中)②安達光流(五泉少年マラソンクラブ)③安達光希(五泉少年マラソンクラブ)▼中学生女子の部①伊藤未桜(五泉北中)②坂上美咲(葵中)③永井都湖

(葵中)▼高校一般女子の部①高野晴香②皆川敬子③上田結月(加茂農林高)▼壮年男子(40歳以上)の部①高井滋(いからしの里)②山際正樹③鶴巻俊央

【8kmコース・駅前〜道半交差点〜八幡桜並木〜猿毛公民館〜ゴール】

▼一般高校男子の部①島影政宏(三条市陸協)②長谷川聡一(長岡技術科学大)③吉川優也(JAにいがた南蒲)

第34回雪椿杯争奪

加茂市近郷家庭婦人バレーボール大会結果

期日 四月十四日

会場 勤労者体育センター

参加 県内十四チーム

優勝 見附BRAVE(見附市)

準優勝 四日町クラブ(三条市)

3位 豊栄クラブ(新潟市、つかさクラブ(加茂市))

〔個人賞〕

最優秀賞 大貫沙季(見附B)

優秀賞 長谷川理恵(四日町ク)

技能賞 栗原由樹(見附B)

石黒裕美子(四日町ク)

敢闘賞 菊池喜美子(豊栄ク)

田邊彩奈(つかさク)



平成30年度 加茂市表彰式



平成三十年度の加茂市表彰式が三月二十八日、産業センターで行われました。

表彰を受けたのは七十八名の方で、いずれも各分野での功労・功績をたたえてのもので、表彰された方々は次のとおりです。(敬称略)

自治興隆

小柳成吾 農業委員会委員として十年以上。岩野

業務精励

関 伸策 四十八年以上にわたり建具職人として精励し、技術の継承に尽力。岡ノ町

横山松雄 四十二年以上にわたり桐箆筒職人として精励し、技術の継承に尽力。田上町

体育功労

矢部千恵子 スポーツ推進委員として十五年以上。下興屋向

田村彩香 スポーツ推進委員として十五年以上。新潟市

保健衛生功労

鈴木 勇 献血五十回以上。八幡

田浦鉄徳 献血五十回以上。中大谷

加茂景子 献血五十回以上。第二十四区

松橋綾子 学校医として二十年以上。千刈一

社会福祉功労

小池衆子 保護司として十二年以上。若宮町一

青柳昌子 介護認定審査会委員として十五年以上。下興屋向

産業振興功労

真保森之助 加茂川漁業協同組合役員として二十一年以上。陣ヶ峰

消防功労

鶴巻清隆 消防団員として三十五年以上。上土倉

市行政功労

金子勝男 区長として十年以上。八幡二

特別表彰

自治興隆

森山一理 市議会議員として十五年以上。都ヶ丘

大森康正 公平委員会委員として二十年以上。五番町

体育功労

渡辺凜太郎 JOCジュニアオリンピックカップ第11回全日本ジュニアテコンドー選手権大会・キョルギの部高校生男子59kg級3位。石川二

福島 希 第29回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会女子

の部3位。矢立
阿部瑞希 平成30年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技女子団体戦で準優勝。高須町一
前山 愛 平成30年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技女子団体戦で準優勝。都ヶ丘
保健衛生功労

石塚久恭 献血百回以上。天神林
馬場賢一 献血百五十回以上。新栄町
林 修司 献血百五十回以上。青海町二

教育文化功労
加茂市史民俗編をとおして七谷の民謡の伝承に尽力された方々
目黒信次（下高柳）、梅田孝二（黒



水東）、坂上康郎（黒水北）、大橋
富子（黒水中）、小柳和子（小乙）、
小柳マサエ（下高柳）、小柳ヤエ
（小乙）、坂上キノエ（黒水南）、
坂上ミサ（黒水北）、茂野綾乃（黒
水中）、鶴巻帛子（黒水中）、外山
八須枝（黒水北）、西潟 恵（黒水
中）

加茂市史民俗編をとおして岡ノ町
神楽の伝承に尽力された方々
山田 均（岡ノ町）、嶋田一則（寿
町）、西須行雄（寿町）、石附健一
（高須町二）、小柳真樹（旭町）、
金子栄一（寿町）、北澤謙太（寿
町）、小林勝正（岡ノ町）、静野
博（岡ノ町）、菅原 充（岡ノ町）、
瀧澤茂秋（寿町）、田下 均（岡ノ
町）、土田利雄（岡ノ町）、坂内長
市（旭町）、廣川勇一（寿町）、吉
村陽介（寿町）

加茂市史民俗編をとおして後須田
鈴踊りの伝承に尽力された方々
星野耕一（後須田第二）、小林 悦
（後須田第一）、小式澤五郎（青海
町二）、今井フミ（後須田第一）、
牛腸幹子（後須田第二）、小林恵子
（後須田第一）、小林貞子（後須田
第一）、小林浩子（後須田第一）、

小林裕子（後須田第二）、小林文子
（後須田第一）、小林ミサ子（後須
田第二）、小林みちよ（後須田第
一）、小林ムツ子（後須田第二）、
中澤アヤ子（後須田第二）、中澤
久子（後須田第二）、難波ユキ（後
須田第二）、西村澄代（後須田第
一）、樋口厚子（後須田第一）、樋
口静枝（後須田第二）、樋口澄子
（後須田第一）、樋口久枝（後須田
第一）、樋口マサ（後須田第二）、
樋口美代子（後須田第二）、福井裕
美子（後須田第一）、渡邊ミチ（後
須田第二）、渡邊義一（後須田第
二）

平成30年度 加茂市教育委員会表彰式
教育文化の発展に寄与された
方々を教育委員会が表彰しました。



表彰式では、加茂市長、教育長か
ら功労・功績に対する感謝の言葉
が贈られました。表彰された方々
は次のとおりです。（敬称略）

教育文化功労
横尾二二秋 公民館運営審議会委
員として十年以上。図書館協議会
委員として十年以上。青海町一
木村 薫 公民館運営審議会委員
として十年以上。新潟市

坂中洋子 図書館協議会委員とし
て十年以上。青海町一
中山正寿 文化会館運営審議会委
員として十年以上。八幡三

文化功労
樋口八重子 第73回県展写真部門
において奨励賞受賞。五番町

加茂の町造り 加茂川沿いの長い町並み

町割は家並みを整え、町屋敷を造り、往来道を整備することである。

江川の溢水が町域に流れないように整備した。

慶安元年（一六四八）加茂町絵図にみられるように、町の家並みは道の両側にあったが、町割はされていなかった。その頃の町は、上町・下町があった。万治三年に

また町割とともにこれまで街道を「徒歩渡り」から町を通過して上条村の方へ向かう道筋に変えた。加茂町は街道の通る宿場町でもあり、道を真っ直ぐに上流の上条村へ向けたのである。

浅野三郎右衛門・福原伝右衛門・吉田間兵衛の三人の大庄屋が置かれ、下町・新町・上町の三区域を担当して町造りを行った。

これは加茂町が宿場町として整えたもので、加茂町だけでは人馬の継立や宿場施設などを維持できなかったため、道の延長の村にある上条村を取り込んで可能としたものであった。上条村を含めての宿場町整備を行ったのである。

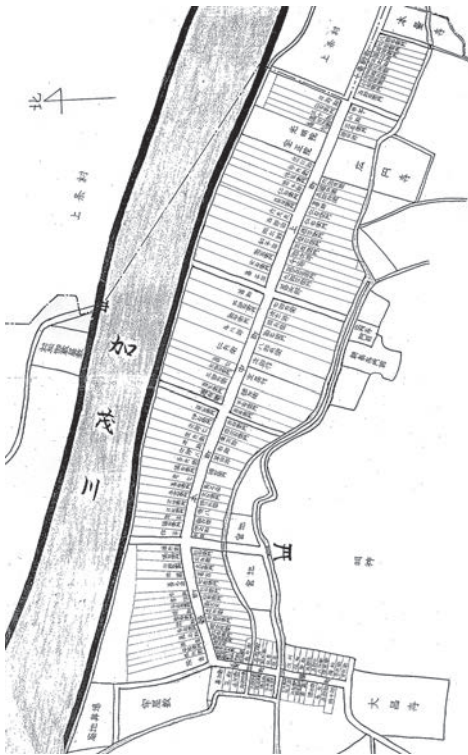
街道が加茂町を通り抜け上条村の方へ迂回し遠回りしたのであったが、加茂町の発展とともに、上条村発展のもととなった。

元禄三年（一六九〇）に上条村域の加茂川沿いに上条新町ができ、加茂町の商人役（商売をする権利）を上条新町へ分けて町造りが行われている。これは上条新町が町場化していくことを見越したものであったとみられる。

元禄五年（一六九二）、加茂の町並みは街道に沿って下から横町・肴町・穀町・本町・中町・上町・十一軒町、上の上条新町と続いて、上条新町まで続く、他町では珍しい一本の家並みが続く町並みとなった。

（関 正平）

加茂の風土記



加茂町の町並み（「延享元年（1744）町屋敷歩間改張」と『寛延3年（1750）五組当所御納帳』より再現図（加茂市教育委員会市川浩一郎文書）

人口のうごき

4月1日現在
 世帯 10,231 (-5)
 人口 27,004 (-136)
 男 13,123 (-72)
 女 13,881 (-64)
 ()内は前月比
 (3月異動分)
 出生 7 (男4女3)
 死亡 21 (男7女14)
 転出 195 転入 73

社会福祉費寄附金

▼加茂菓子組合から 十万円

